☆地域おこし協力隊四コマ☆
「リアル謎解きに挑戦！？の巻」

ご意見募集中

本誌では、取り上げてほしい内容や取材依頼、企画など幅広く募集しております。また本誌の購読をご希望の方にはお送りさせていただきます。　詳しくは地域おこし協力隊白石まで。

お問い合わせ

kurotakimuralover@yahoo.co.jp

観光PR担当 白石隊員
長年住んでる方も知らない村のネタを掘り出した時の感動は…プライスレス！

奈良県黒滝村地域おこし協力隊新聞
黒滝村 Lover vol. 8

平成２９年９月１日発行

	発行
企画	黒滝村役場企画政策課
黒滝村地域おこし協力隊	〒638-0292
制作・編集	奈良県吉野郡黒滝村
白石隊員（観光ＰＲ担当）	大字寺戸 77 番地
マンガ	Tel 0747-62-2031
作：シライシ画：マルモリ	Fax 0747-62-2569

☆黒滝村News☆サマーフェスティバル in くろたき

毎年恒例のビッグイベント「サマーフェスティバル in くろたき」が８月１３日（日）に開催されました。普段は他村・県外にでている村民さんも帰省し、100名以上の集客がありました！
奈良唯一のプロレス団体「万葉プロレス」の興行など、盛りだくさんの一日でした！！

☆村外の話題ご紹介☆

奈良県吉野郡上北山村で「リアル謎解きゲーム」が開催されました！

上北山村 地域おこし協力隊 西岡資裕（にしおかもとひろ）さん

1984年３月３日和歌山県岩出市生まれ。東京で舞台役者として活動後、自然が大好きな自身の性格を活かせると感じ、昨年３月に協力隊に転職し夫婦で上北山村に移住する。動画作成・配信やチラシ制作、村民向け新聞の制作、イベント企画など、マルチに活躍されています！

●上北山村地域おこし協力隊・西岡さんの活動からは常に目が離せません！実は西岡さんが制作されている村民向け新聞の存在と、なによりそのクオリティの高さに触発されたことがきっかけで本誌「黒滝村Lover」の企画がスタートしました。そんな西岡さんが次に仕掛けた新企画が今年７月２２日に実施された「リアル謎解きゲーム」でした。

●今、各地で話題の「リアル謎解きゲーム」は自治体などが業者に発注することが一般的ですが、西岡さんは予算をほとんどかけず、「完全自主制作」という規格外のイベントとして実現させました。ブックに記された問題を解くと目的地がわかり、そこに行くと次のヒントがわかるという構成になっている為、必然的に商店との交流や、村の歴史・文化との触れ合いが生まれる仕掛けです。

●西岡さんも所属する「がんばろうえ！かみきた」主催のマルシェも同時開催し、人口約550名の同村で、250名以上の集客を記録しました。上北山村といえば恒例の「ヒルクライム大台ケ原」はもちろん、「大台ケ原マラソン」もあり、８月には婚活パーティも開催された、常にアクティブな村です。今後の動向も要チェックです！！

読み応えバッチリのストーリーブックも魅力のひとつ。ヤタガラスと共に怪盗が送った予告状の謎を解け！

同時開催のマルシェではさまざまな出店がされました。中には「透かし彫り」の素敵なアクセサリも！！

かんばろうえ！かみきたＦＢ　上北山村ホームページ

上北山村役場
〒639-3701
奈良県吉野郡上北山村
河合330
Ｔｅｌ　07468-2-0001

◇隊員のつぶやき◇

農業担当（集落支援員） 樋口支援員

今年もサマフェスで太鼓叩きました。お客さんの前で叩く太鼓は楽しいですね。和太鼓最高！

観光施設担当 藤田隊員

きらりの森では、手作り窯でピザ作り体験ができます♪日帰りでも体験頂けるのでお問い合わせください！

食の6次産業化プロジェクト担当 勝原隊員

サマフェスでのチョコバナナ、作るのも売るのも初めてでしたが楽しかったです！

林業振興担当 辻本隊員

サマフェスのチョコバナナはいかがでしたか？今度はピヤッ、パリパリのチョコバナナを目指します。

林業振興担当 住吉隊員

サマフェスでスカイチームのお手伝い！子供達とも大人の方とも沢山ふれあいさせて頂きました。気になられた方、ぜひ来年は登ってみませんか～。

林業振興担当 久喜隊員

サマフェスにブースを出して初参加。村の賑わいに加われたかなと思います。

●黒滝村へのアクセス

※画像提供　岡村印刷工業株式会社

電車＆バスで

●京都から
近鉄京都 → 近鉄特急（橿原神宮前乗り換え）約1時間20分 → 下市口 → 奈良交通バス 約50分 → 黒滝案内センター

●大阪から
近鉄大阪阿部野橋 → 近鉄特急 約1時間 → 下市口 → 奈良交通バス 約50分 → 黒滝案内センター

※平日に限り、村内巡回バス「ふれあいバス」運行。※待ち時間は含まれておりません。また、時間帯により所要時間が変わります。

こちらのQRコードから投票できます！

黒滝村地域おこし協力隊ブログ　ホームページ

奈良県黒滝村地域おこし協力隊新聞

黒滝村（くろたきむら） Lover Vol.8

TAKE FREE

● Cover Place
黒滝村大字寺戸「遍照寺（へんじょうじ）」

黒滝村で交わる文化と伝統

他村からも大注目の老人会 脇川（わきがわ）サロン

福かきもち（税込）400円

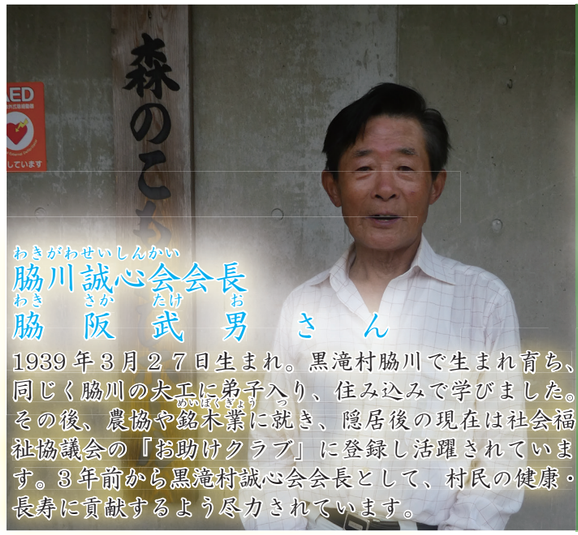
「309道の駅」のデイリーショップヤマザキ黒滝こんにゃくよもぎの里にて絶賛販売中！！

話題沸騰 オーダーメイド 透かし彫り

工芸士 山口哲雄さん

他村からも注目を浴びる活気あふれる老人会

脇川サロン



脇川誠心会会長
脇阪武男さん

1939年３月２７日生まれ。黒滝村脇川で生まれ育ち、同じく脇川の大工に弟子入り、住み込みで学びました。その後、農協や銘木業に就き、隠居後の現在は社会福祉協議会の『お助けクラブ』に登録し活躍されています。３年前から黒滝村誠心会会長として、村民の健康・長寿に貢献するよう尽力されています。

●毎年開催される「村民文化祭」にも積極的に作品を出展しています。左の写真上段は数年前に和紙で作った灯火提灯。
●写真中段は小さな折鶴を何千羽も折って作った鶴のアート作品です。
●写真下段は日本一の靴下シェアを誇る奈良県広陵町の靴下を使って制作した平成27年度の「くろたん」オブジェです。今も役場に展示され村民から親しまれています。

◇皆が楽しめる交流の場◇

●黒滝村には60歳以上から入会できる誠心会（老人会）が各地区（大字）にあります。毎月サロンを開き交流を深めている大字が多くありますが、特に活発なのが脇阪武男さんが会長を務める脇川誠心会＝脇川サロンです。毎月第二火曜日は血圧測定の他、クイズやゲームも実施し、出題者の脇阪さんは面白いものを探すため普段からテレビや本で情報収集しています。また、材料を持ち寄りみんなで楽しくお昼ご飯を食べるのも特徴です。毎年11月に開催される「村民文化祭」に向けて作品制作も行ってきました。特に平成27年に靴下の端切れだけで制作した「くろたん」の靴下アート作品は役場に展示され、今や役場の顔とも言える作品になりました。

定番のお土産 ◇「福かきもち」◇

●脇川サロンの目玉は宇原良子さんが代表を務める『福かきもち』の製造･販売です。「かきもち」というのは「おかき」のことで、日本各地で作られてきた伝統菓子です。黒滝でも昔は正月にお餅をついて家にかきもちを吊るす光景がどの家庭でも見られましたが、徐々にすたれてしまいました。七年前、かきもちの商品化の要望があり脇川サロンでの製造・販売を開始しました。当初はボランティア状態で、時給換算で100円の手間賃にしかならないものでしたが、村からの補助金や、お土産の定番商品として定着したことなどから状況は徐々に改善されました。しかし、五年間の補助金の交付期間は昨年で終了し、今年からは補助金なしでの再スタートを切りました。新商品の企画など、たくさんの試行錯誤をされています。

●地域の交流を深め、特に家にこもりがちになる冬の交流の場として、また一人暮らしの高齢者でも気軽に顔を出せる場所として始めた脇川サロンは、見事に目的を達成し機能し続けています。村民の半数以上が60歳以上となる当村における模範的なサロンとして、村内のみならず他村からも注目を浴び、視察も来るようになりました。とにかく長く続けることを目標に脇川サロンは活動しています。

福かきもち 税込400円

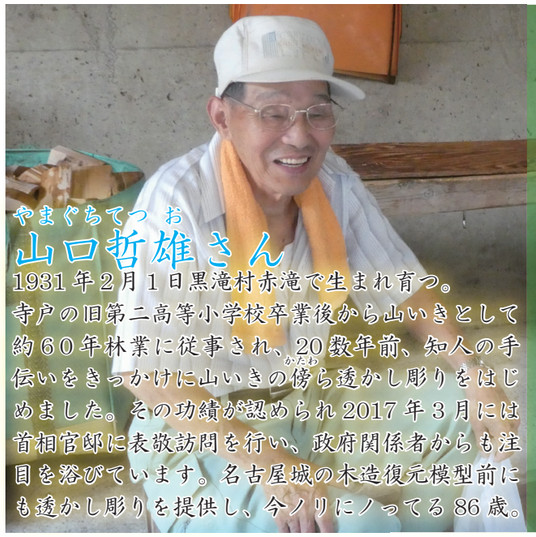
手作りの素朴な味と絶妙な塩加減がクセになり、やめられない一品！？

村の名物「福かきもち」は宇原さんをはじめとする女性約10名と、脇阪さんら男性4名で製造しています。毎年1月に一年分のお餅をすべてつき、集会所で2か月も自然乾燥させています。

脇川サロン
奈良県吉野郡黒滝村脇川335 脇川集会所
Tel 0747-62-2616
「福かきもち」全国配送承ります
（送料別途ご負担ください）

話題沸騰中の透かし彫り

年輪工房透かし彫り



山口哲雄さん

1931年２月１日黒滝村赤滝で生まれ育つ。寺戸の旧第二高等小学校卒業後から山いきとして約６０年林業に従事され、20数年前、知人の手伝いをきっかけに山いきの傍ら透かし彫りをはじめました。その功績が認められ2017年３月には首相官邸に表敬訪問を行い、政府関係者からも注目を浴びています。名古屋城の木造復元模型前にも透かし彫りを提供し、今ノリにノってる86歳。

◇首相への表敬訪問◇

●４月19日当村は、上中三郎さん（中戸）が書を担当したネームプレートと花井慶子さん（下市町）がデザインした吉兆紋飾りの額を、首相官邸に謹呈、安倍晋三首相に表敬訪問しました。その透かし彫りを制作したのが山口哲雄さんです。

◇ 山いきとして歩んだ約60年 ◇

●学童の頃は黒滝第一尋常小学校（現・赤滝集会所）に通いましたが、戦時中は子供たちも山で炭を運び、農業にも従事し「仕事」が沢山ありました。木の出荷時には赤滝～丹生まで約８kmの道のりを各大字でリレー式に薪を運びました。

●山いきとして働き始めた10代の頃はチェーンソーもなく、作業は鉈や鋸、鎌で行いました。夕方に道具を研ぐ作業が必須で絶対に怠ることはできません。当時の山いきは「節季払い」といい、盆や正月にまとめて給料が支払われることが主でした。その為、どこの商店でもツケ払いが当たり前で、盆や正月には帳面の確認や集金で村内はにわかに慌しくなりました。

◇透かし彫りの誕生◇

黒滝の透かし彫りは、赤滝出身の故・中井基一郎さんに始まります。基一郎さんは墓石に文字を掘る「サンドブラスター」を吉野杉に当てると冬目（冬に育つ年輪）だけが残ることを発見し、それを応用して大阪で吉野杉の透かし彫りを始めました。その後、赤滝に戻り親戚の工場で続けましたが他界され、「端材を有効活用したい」との思いで手伝いに来ていた哲雄さんが引き継ぎました。「山いき」として架線も伐採もとにかく手際が良いと周囲から絶賛されていた器用な哲雄さんにとって、透かし彫りは天職といえるものでした。短冊や南都銀行のネームプレートから始めた黒滝の透かし彫りは今や全国に評判が広がりつつあります。

●「高齢者を大事にすることよりも若い人を大事にして育てることの方が重要。そしたら若い人達が増えて、みんなが高齢者を大事にしてくれるはず」と笑う哲雄さん。その人柄を慕って、たくさんの若者たちが年輪工房に遊びに来てくれるようになりました。

2022年12月の竣工を目指し、木造復元が決定した「名古屋城天守閣」。記念して製作された模型のお祝い看板として哲雄さんの透かし彫りが使用されました。現在は模型と共に名古屋城前に展示されて

工場に大切に飾られている首相とのツーショット写真。政府や行政関係者からの透かし彫りの注文もあるとか！？

透かし彫りの必需品 サンドブラスター。
微細なガラスビーズを吹き付けることで、年輪の固い部分（冬目）以外を吹き飛ばして製作します。

◇若い頃は樽丸職人だった！？◇

●樽職人の父・栄次さんの影響で、昔は「樽丸」の仕事にも従事し、「黒滝で最も若い元樽丸職人」を自負されています。樽丸とは酒樽の材料である「クレ」と呼ばれる杉材を竹の輪で束ねたものです。

写真は黒滝村民俗資料館（旧役場庁舎）に展示のもの。2014年３月に「黒滝の樽丸製作用具」103点が奈良県有形民俗文化財に指定されています。

年輪工房透かし彫り
〒638-0211 奈良県吉野郡黒滝村赤滝５６
Tel 0747-62-2346

道の駅のふるさと販売所（土日のみ営業）で、年輪工房の透かし彫り販売中！！